

カレサングウミクワガタ *Gnathia camuripenis* (等脚目:ウミクワガタ科)の北限記録

太田悠造¹・橋元里菜²

¹ 〒 681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷 1794-4 鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1 丁目 21 番 35 号 鹿児島大学大学院理工学研究科

Abstract

Four individuals of *Gnathia camuripenis* Tanaka, 2004 (Isopoda: Gnathiidae) were collected from Kikai-jima Is. and mainland Kagoshima Pref. This species had previously been recorded as occurring as far north as Tanegashima Is., with the southernmost record in Japan being Ishigaki-jima Is. in the southern Ryukyus, and a record outside Japan being from the Philippines. Therefore, this report represents a new northernmost record for this species.

はじめに

等脚目ウミクワガタ科 Gnathiidae Laach, 1914 は、幼生が魚類に外部寄生し、成体は寄生を行わずに海底の特定の基質内で繁殖のみを行う(太田, 2013, 2019)。本科に含まれるカレサングウミクワガタ *Gnathia camuripenis* Tanaka, 2004 は、石垣島の浦底湾から記載され(Tanaka, 2004)、その後、沖縄島、慶良間諸島、久米島、種子島沿岸から見つかり(太田, 2011; Ota, 2012; Ota et al., 2025)、国外ではフィリピンからも記録されている(Shodipo et al., 2021)。今回、喜界島及び、九州本土の鹿児島県沿岸から本種が見つかったので、ここに北限記録として報告する。

材料と方法

ウミクワガタ類は、2025 年 7 月 3 日にスキューバダイビングにより、鹿児島県南さつま市坊津網代沿岸(31°17'56.8"N, 130°12'03.7"E)の水深 25 m で二枚貝のマベ *Pteria penguin* (Röding, 1798) を採集し、貝殻表面を洗い出して得られた。同様に

2025 年 9 月 18 日にシュノーケリングにより、喜界島の池治海水浴場沿岸(28°19'39.5"N, 129°57'09.2"E)の水深 1 m で二枚貝のシラナミガイ *Tridacna maxima* (Röding, 1798) を洗い出して得られた。これらを 99% エタノールで固定し、実体顕微鏡下で観察して同定を行った。属の同定は Ota et al. (2025) を参照した。標本は今後の研究で用いるため、第 1 著者が保管している。

結 果

ウミクワガタ科 Gnathiidae Leach, 1814

ウミクワガタ属 *Gnathia* Leach, 1814

カレサングウミクワガタ *Gnathia camuripenis* Tanaka, 2004 (Fig. 1)

標本 雄成体 1 個体(体長 3.0 mm + 大顎長 0.9 mm)、3 期プラニザ幼生 1 個体(体長 3.2 mm)、鹿児島県坊津網代沿岸、マベ *P. penguin* の貝殻表面から。雄成体 2 個体(2.7 mm + 0.7 mm, 2.9 mm + 0.7 mm)、鹿児島県喜界島池治海水浴場、シラナミガイ *T. maxima* の表面から。

分布域 琉球列島～九州南部(石垣島、沖縄島、慶良間諸島、久米島、喜界島、種子島、鹿児島県本土)、フィリピン

分布水深 0.5–73 m

成体の生息環境 死サング片、岩の隙間、砂泥底、貝混じりの砂

幼生の宿主及び寄生部位 不明

Ota, Yuzo & R. Hashimoto. 2026. Northernmost record of *Gnathia camuripenis* (Isopoda: Gnathiidae). *Nature of Kagoshima* 52: 193–195.

✉ YO: San'in Kaigan Geopark Museum of the Earth and Sea, 1794-4, Makidani, Iwami-cho, Tottori 681-0001, Japan. (e-mail: yota1164@gmail.com).

Received: 2 February 2026; published online: 5 February 2026; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-049.pdf

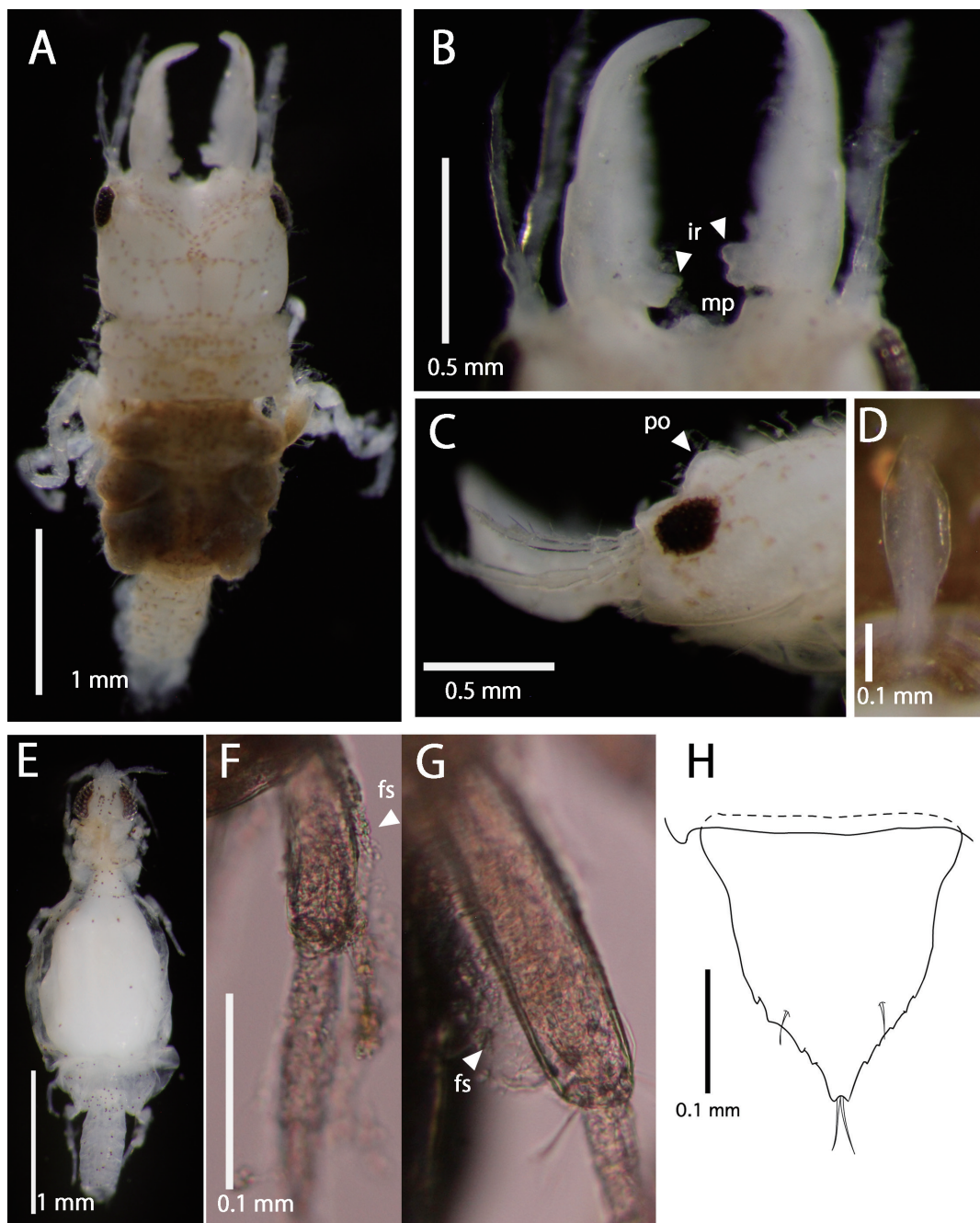


Fig. 1 Preserved male adult (A–D) and third-stage praniza larva (E–H) of *Gnathia camuripenis* from Bonotsu-Ajiro coast. A, whole body; B, frontal border and mandible; C, head in lateral view; D, penes; E, whole body (swollen thorax is damaged); F, peduncle of antennule, G, peduncle of antenna; H, pleotelson. ir = internal lobe, mp = mediofrontal process, po = paraocular ornamentation, fs = fine setae.

備考

雄成体の標本は、門脚（第1胸肢）が3節あり、1節目が幅広く顎脚を覆っている点、大顎がニッパー状で、頭部前縁に突起がある点で *Gnathia* 属

と同定された。また、頭部から第4胸節にイボや剛毛が密ではなくまばらな点、頭部が四角形で、頭部が大きい（大顎を除く体長の0.2倍以上）点、大顎の基部に台形型の内葉 internal lobe がある点、

眼上装飾 paraocular ornamentation がやや隆起して発達している点、ペニスが1本に癒合して前方向に伸長し、顕著に発達している（多くの種は1対の小さな乳頭）点から（図 1A–D）、Tanaka (2004) による原記載や Shodipo et al. (2021) による記載図によく一致し、カレサンゴウミクワガタ *G. camuripenis* と同定された。

1 個体のみ得られた幼生は、第 1、第 2 触角の柄部に細かい毛が列生する点や、腹尾節の側縁が大きく膨らみ、側縁の先端付近が少し鋸歯状になる点から（Fig. 1E–H）、Tanaka (2004) によるカレサンゴウミクワガタの幼生の記載によく一致するので、同種の幼生と考えられる。また、体サイズがほぼ成体と同じであり、一般的に知られる本科の幼生期は 3 期までで、胸部が宿主の体液を吸って膨張しているステージ（プラニザ幼生期）のため（例えば、太田, 2013）、3 期プラニザ幼生と判断できた。

Tanaka (2004) による記載以降、琉球列島に広く分布することが分かり、海底の死サンゴや岩の隙間に雌成体や幼生と一緒に生息しているようで、これらを洗って目の細かい網でろ過すると得られている（太田, 2011）。今回も貝類に付着している基質や貝殻の隙間などを利用していたものと思われる。なお、ドレッジによる砂泥や貝混じりの砂の底質（Ota, 2012; Ota et al., 2025）、フィリピンでは、夜間のサンゴ礁におけるライトト

ラップで幼生を得て成体に脱皮させて得られている（Shodipo et al., 2021）。このように、本種は広々とした海底の基質に生息しているものと思われる。これまでは種子島沿岸が北限記録だったが、本調査により九州本土で見つかり、北限更新となった。黒潮流域の沿岸に広く分布している可能性が高く、同様の調査を行えば、より高緯度地域でも見つかるだろう。

引用文献

- 太田悠造. 2011. 琉球列島のウミクワガタ採集あれこれ. うみうし通信, 70: 2–4.
- Ota, Y. 2012. Gnathiidae from Kumejima island in the Ryukyu Archipelago, southwestern Japan, with description of three new species (Crustacea: Isopoda). Zootaxa, 3367: 79–94. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.3367.1.8>
- 太田悠造. 2013. 魚類に寄生するウミクワガタ科幼生の宿主利用. Cancer, 22: 57–63.
- 太田悠造. 2019. ウミクワガタ類の成体における生息基質利用. Cancer, 28: 51–56.
- Ota, Y., Kakui, K., and Shimomura, S. 2025. Review of the Gnathiidae (Crustacea: Isopoda) of western Japan with a description of five new species, one redescription, and one new Japanese record. Bulletin of Marine Science, 101(2): 941–993. <https://doi.org/10.5343/bms.2024.0086>
- Shodipo MO, Sikkil PC, Smit NJ, Hadfield KA. 2021. First record and molecular characterization of two *Gnathia* species (Crustacea, Isopoda, Gnathiidae) from Philippine coral reefs, including a summary of all Central-Indo Pacific *Gnathia* species. Internal Journal for Parasitology: Parasites and Wildlife, 14: 355–367. <https://doi.org/10.1016/j.ijppaw.2021.03.004>
- Tanaka, K. 2004. A new species of *Gnathia* (Isopoda: Cymothoida: Gnathiidae) from Ishigaki Island, the Ryukyus, southwestern Japan. Crustacean Research, 33: 51–60. https://doi.org/10.18353/crustacea.33.0_51